

## 第1回あまがさき創生に向けた意見交換会（発言要旨）

平成27年6月16日（火）  
午前10時30分～正午

### （1）6つの基本目標について

- ① 資料にある6つ基本目標はこれでよい。①「子ども・子育て支援の充実」②「学校・社会教育と人材育成」⑥「シビックプライドの醸成」が難しい課題である。【関連（4）①】

### （2）尼崎の特徴やイメージについて

- ① 子どもが生まれた後に家族で尼崎から転出してしまいう傾向があるのは数字上あきらかである。【関連（4）①】
- ② 平均所得が近隣市と比べて低い傾向が見られる。（他に、近隣都市が高いのではという意見もあり）。【関連（4）⑦】
- ③ 子どもの頃から学校が荒れているといったイメージがある。それは今も変わっておらず、自分が親となったときに市外への転出を選択する原因となった。
- ④ 尼崎は「住みやすい町」ではあるが、「住みたい町」ではないと感じる。

### （3）尼崎の課題について

- ① ・ 尼崎には何でもあるので、逆にどれを打ち出すかを絞りきれていない。  
・ コンテンツはいろいろあるが、それぞれが結びついていない。
- ② 地方創生や100周年など、市政について市民がもっと関心を持たなければならない（あまり持たれていない）。
- ③ 市職員の半分以上が市外に住んでいるのも問題である。
- ④ 今後、生産年齢人口が減っていくことが危惧される。
- ⑤ 高齢者に対する社会保障に費用を注ぎ込みすぎている。政策の重点のかけ方を大胆に変更すべき。最も欠けているのは「長く生きて何をするのか」という哲学ではないか。
- ⑥ 尼崎は、若い人を育てるという感覚が弱いのではないか。

### （4）尼崎の目指すべき姿について

- ① 「教育都市」を一つの目標としたらどうか。これは「シビックプライド」の問題も同時に解決することができる。
- ② 「シティプロモーション・ブランド化」については多くの自治体も掲げているが、それを「見える化」することが大切である。【関連（4）③】
- ③ 尼崎が面白いと若い人たちに思ってもらわなければならない。

④ 100周年の時期とも重なることから、歴史的建造物で音楽祭を実施する「あまがさき歴史音楽祭」のように、歴史・アートを活用した観光地を目指すのはどうか。【関連(4)⑤】
⑤ 「文化」や「歴史」のイメージの転換は重みがあり時間がかかるが、「アート」は比較的容易にイメージを変えることができる。
⑥ 健康をキーワードにしてはどうか。尼崎市はサイクリングロードも整備されているし、歩くことも年をとってからに限らず健康というキーワードに結びつく。また、笑うことも健康に繋がる(お笑いのまち)。
⑦ 所得に関する議論においては、働ける人が皆働けるような環境をつくり「世帯の所得を確保していく」フル雇用という考え方のもと、女性も高齢者も含む議論が必要である。
⑧ 産業界・経済界が人を育てる、教育するという環境を整備することが重要。産業都市としての経験を活かし、起業を促進する取組を進めては。

#### (5) 尼崎の教育(社会教育・生涯学習含む)について

① 学力のランキングだけを気にする必要はない。
② 女性が(出産等を経て)元の職場に戻って働き続けられるような環境をつくる必要があり、それには教育が非常に大事である。
③ 教育は学校任せではなく、地域が関わって勉強できるような環境、勉強することが当たり前の環境をつくっていかなくてはならない。
④ 個性のあるクリエイティブな子どもを育てるため、サイエンス校など、市内の医・農・理工系の職業に就いている方々に授業をしていただければ。
⑤ 個性の伸長だけで若い父母が魅力を感じるかどうかは悩ましいが、教育(イメージ)については突破口を開く必要がある。
⑥ 教育とは、その過程で様々な経験をさせることが大事である。

#### (6) 総合戦略等の見せ方について

① 未来予想図という発想はよい。尼崎がどのように変わるのかを市民に訴えることが重要である。
② 総花的になるのは仕方ないが、メリハリをつけ軸をつくるべき。【関連(4)⑥】

#### (7) その他

① 伊丹・西宮などと合併したほうがよいのでは。
② 将来親になる世代を考えるとということは、今の中学生が親になるタイミングということである。世代の違い、時間軸の違いを認識する必要がある。
③ 若い人の意見を聞いて発信すべき。女性中心の取組を。